

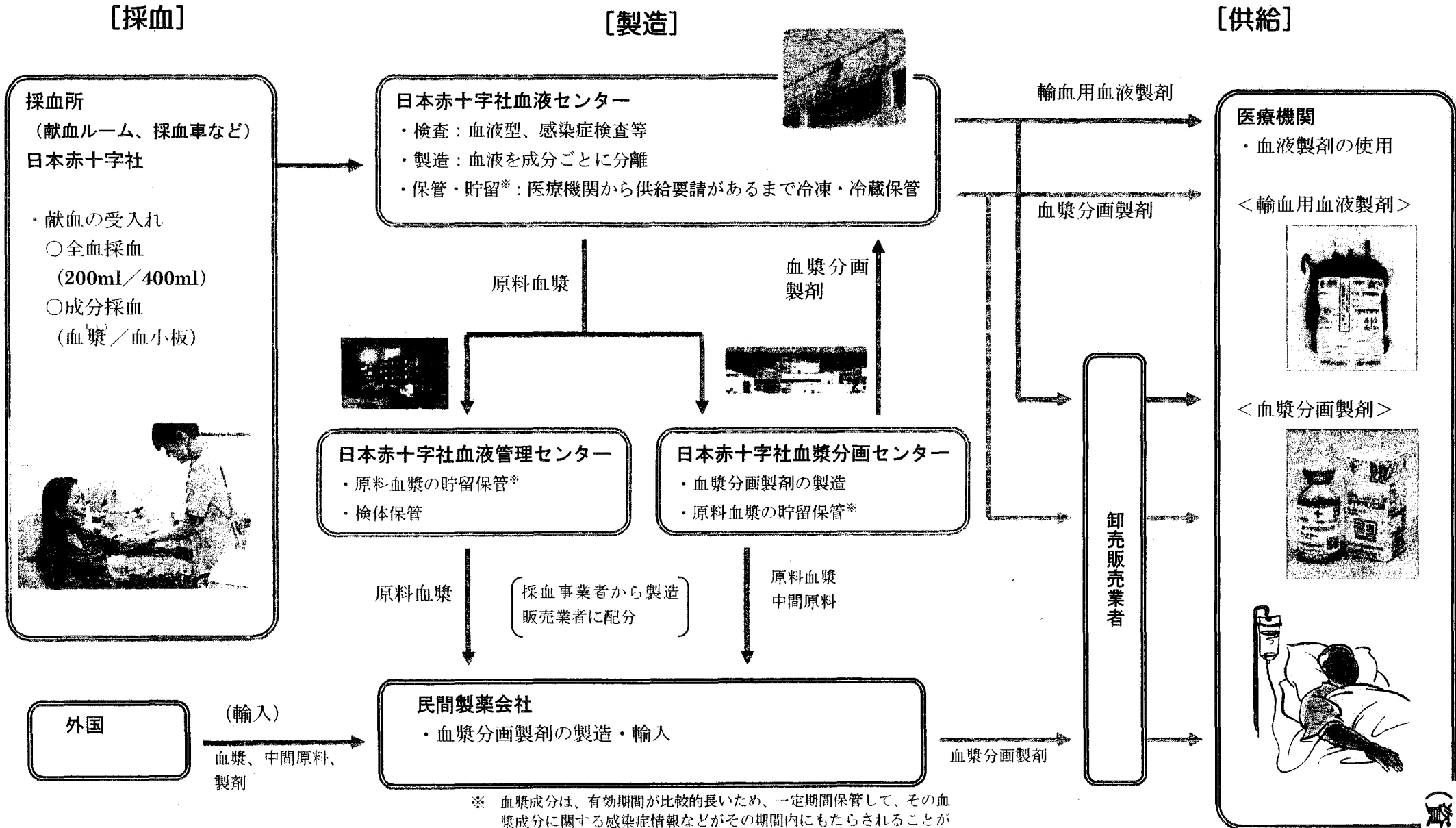
現在開発中の人血清アルブミン(遺伝子組換え)製剤の概要

2007年9月現在

予定される効能・効果	予定診療分野	予定使用対象(血液製剤の使用指針より)
<p>低アルブミン血症 ・アルブミンの喪失 (熱傷、ネフローゼ症候群など)</p> <p>・アルブミン合成低下 (肝硬変症など)</p> <p>出血性ショック</p>	<p>1. 内科 (消化器、泌尿器、腎臓等)</p> <p>2. 外科 (消化器、胸部移植等)</p> <p>3. 救急、形成、麻酔科</p>	<p>1. 肝硬変に伴う難治性腹水</p> <p>2. 難治性の浮腫、肺水腫を伴うネフローゼ症候群</p> <p>3. 循環動態が不安定な血液透析等の体外循環施行時</p> <p>4. 凝固因子の補充を必要としない治療的血漿交換療法</p> <p>5. 低蛋白血症に起因する肺水腫あるいは著明な浮腫が認められる場合</p> <p>6. 循環血漿量の著明な減少を伴う急性膵炎など</p> <p>7. 人工心肺を使用する心臓手術</p> <p>8. 出血性ショック等</p> <p>9. 重症熱傷</p>
<p>申請製剤: 5%250mL、25%50mL</p>		

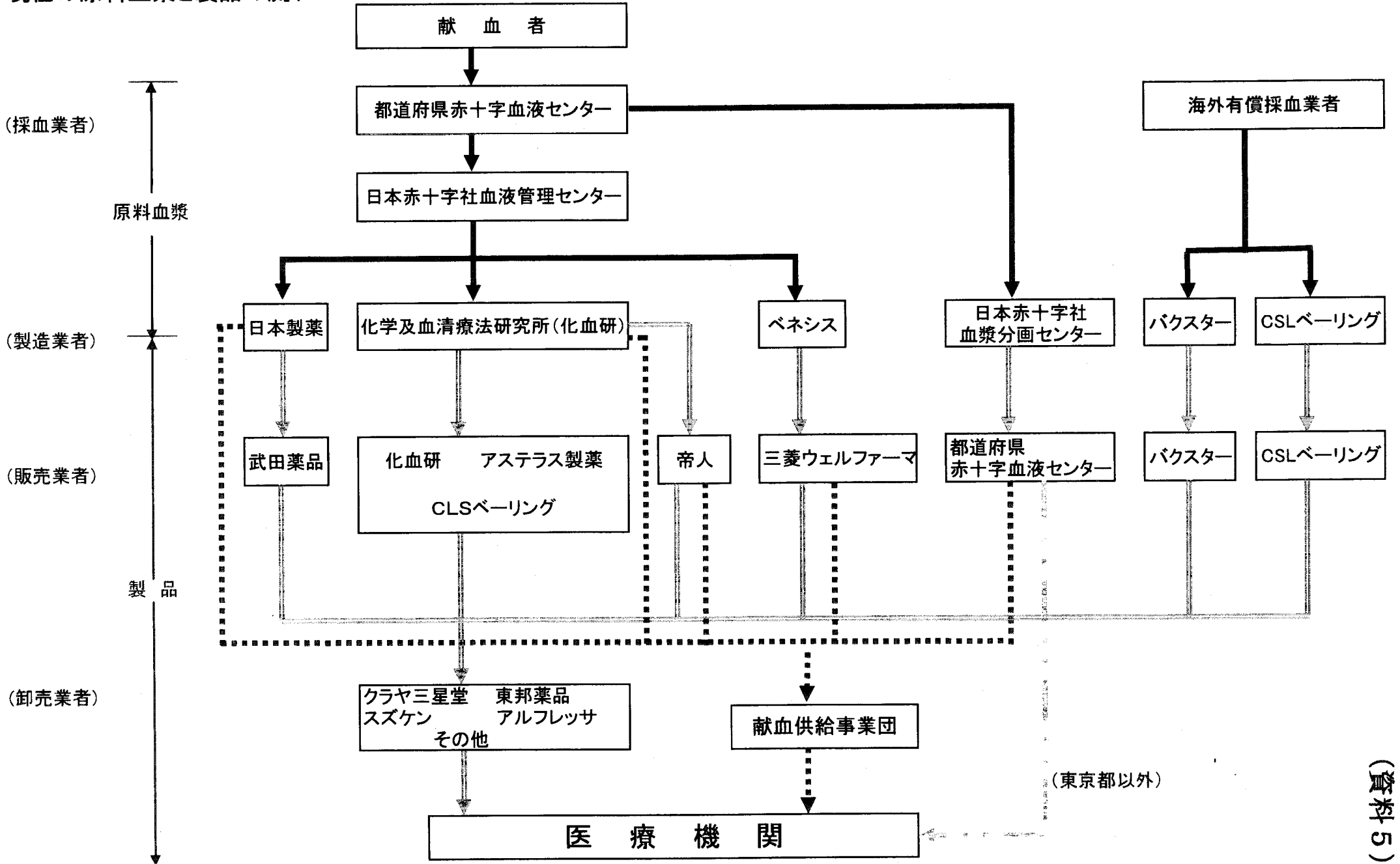
血漿由来と同様

＜我が国における血液の流れ＞



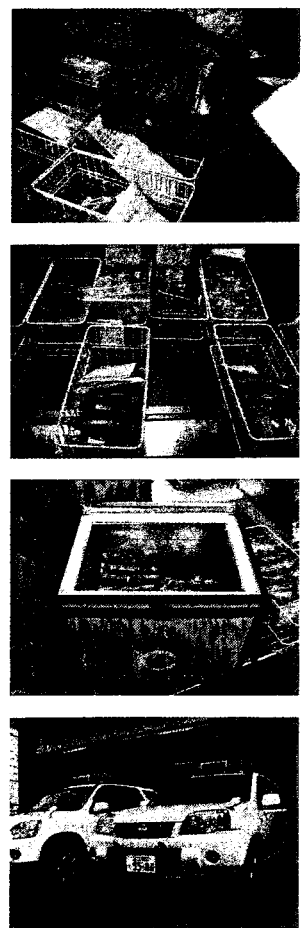
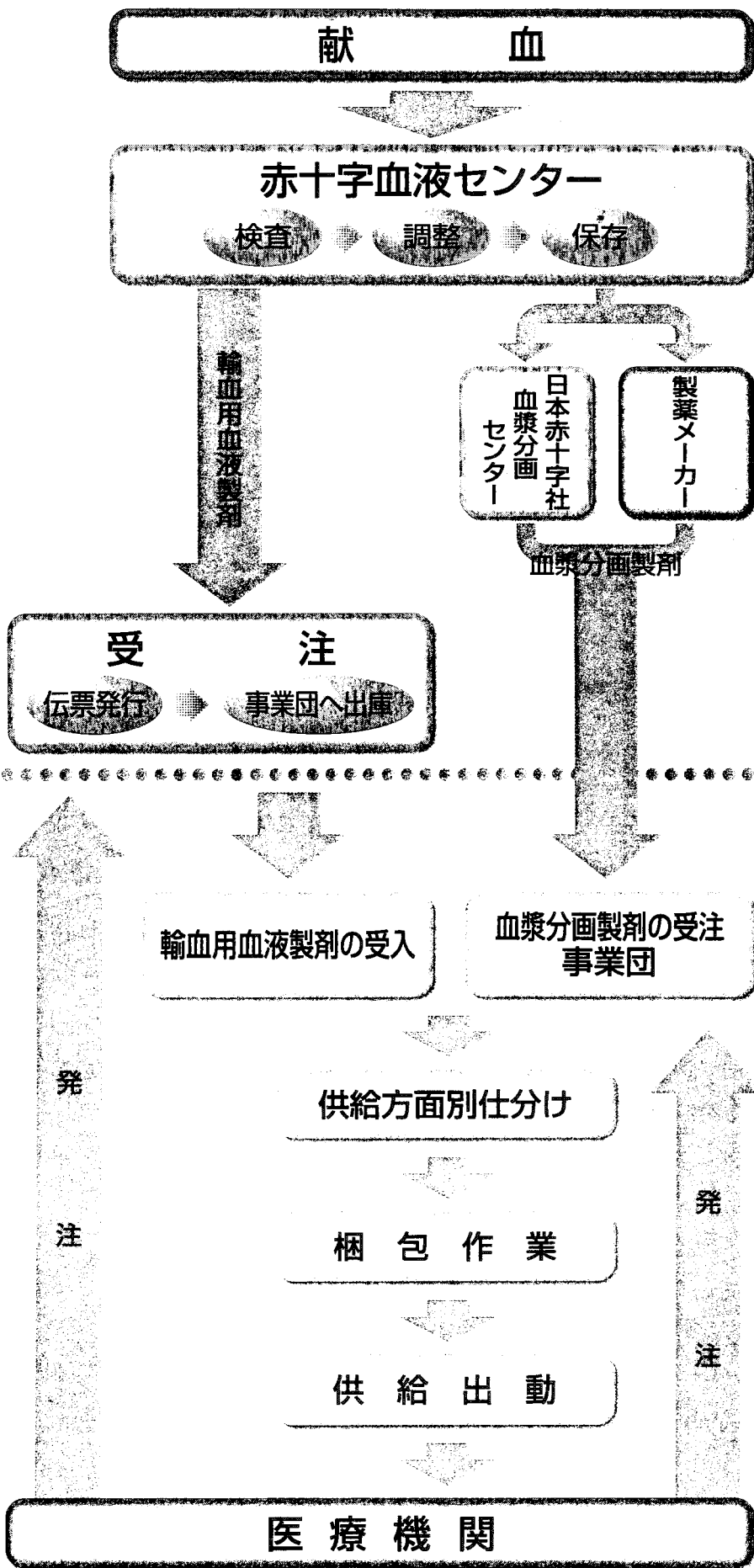
※ 血漿成分は、有効期間が比較的に長いので、一定期間保管して、その血漿成分に関する感染症情報などがその期間内にもたらされることがないことを確認してから出荷されます。これを貯留保管といいます。

現在の原料血漿と製品の流れ



(財) 献血供給事業団パンフレット
「事業団の概要」より抜粋

供給業務の流れ



日本赤十字社における 血漿分画製剤の供給状況

全国の血液センターを7ブロックに分け、
7基幹センターをもとに血液製剤の需給
状況の把握、需給調整を実施

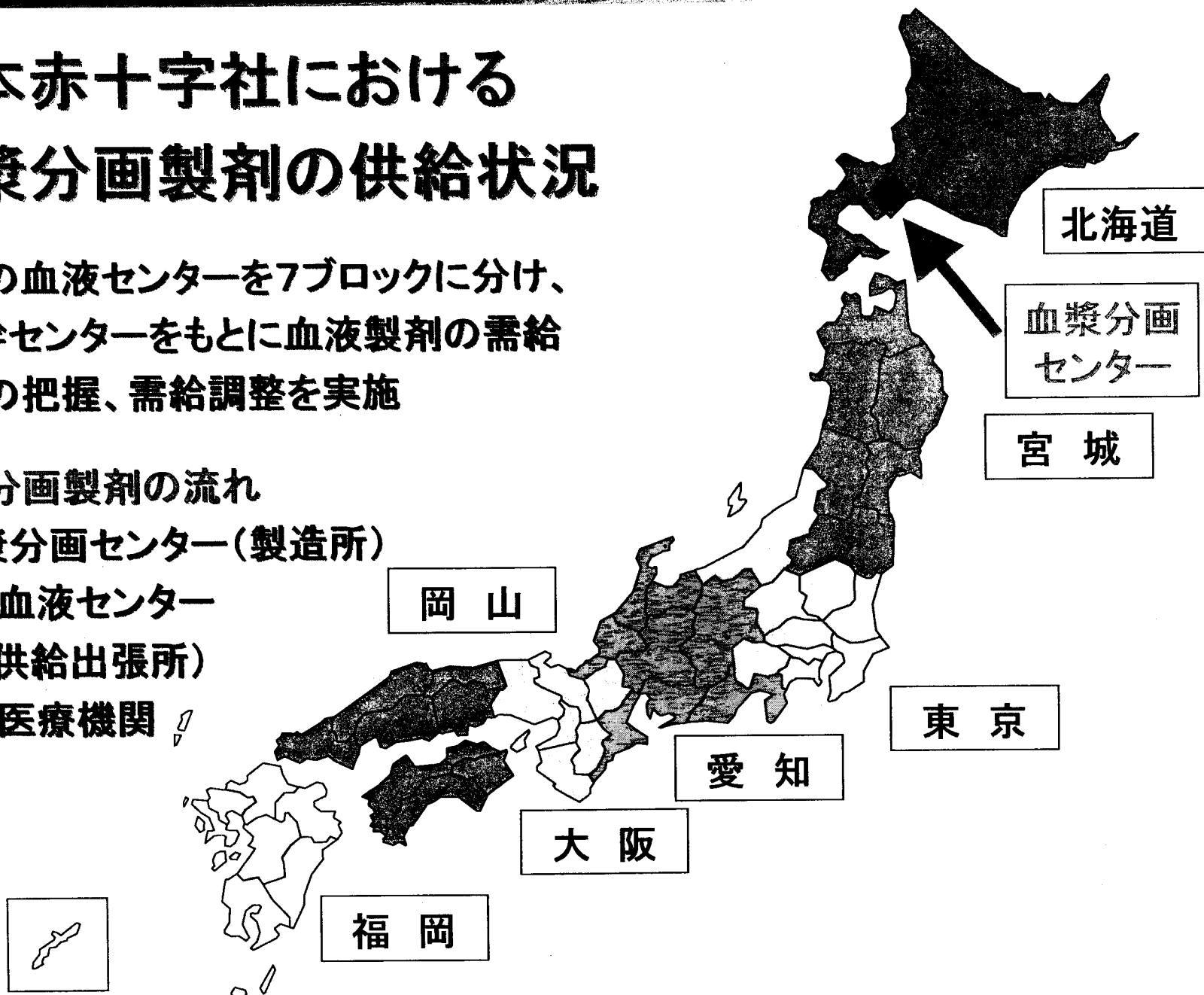
血漿分画製剤の流れ

血漿分画センター(製造所)

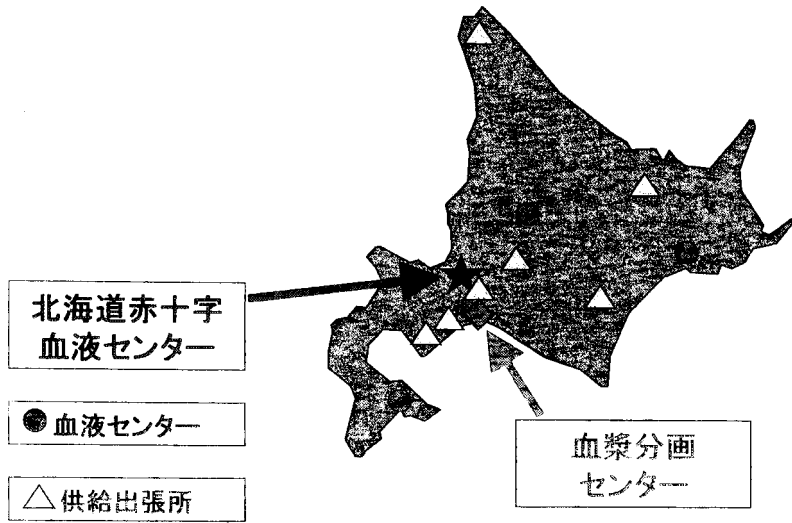
⇒ 血液センター

(⇒供給出張所)

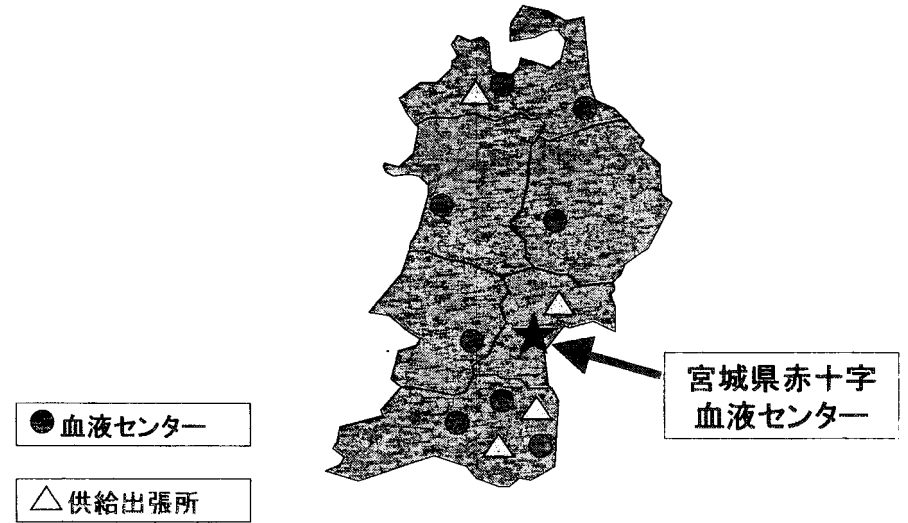
⇒ 医療機関



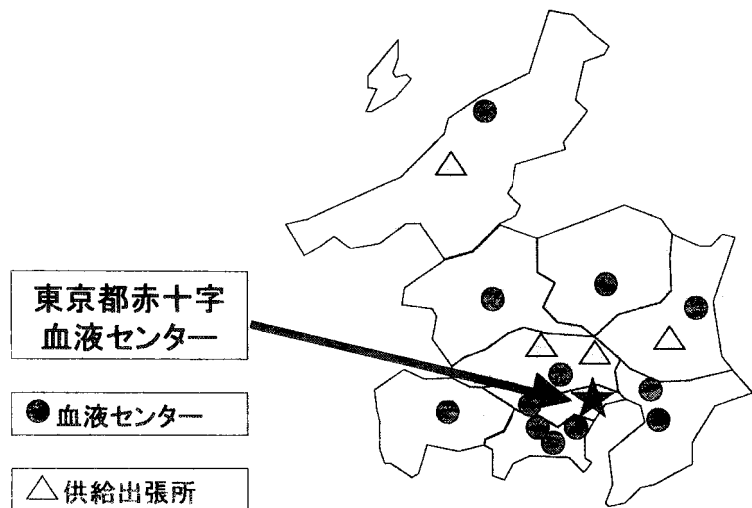
(1) 北海道ブロック



(2) 宮城ブロック

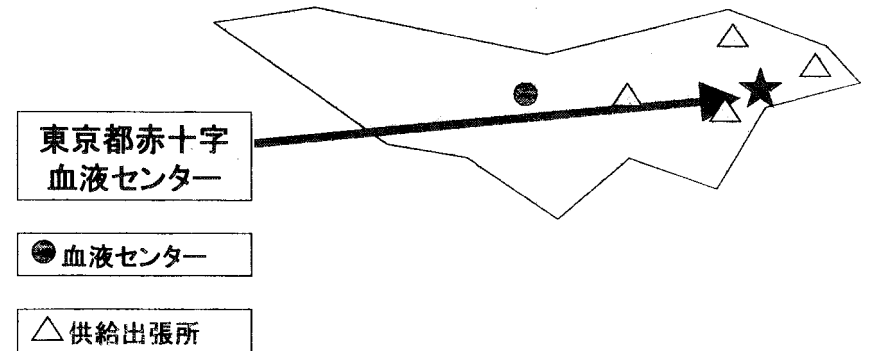


(3) 東京ブロック

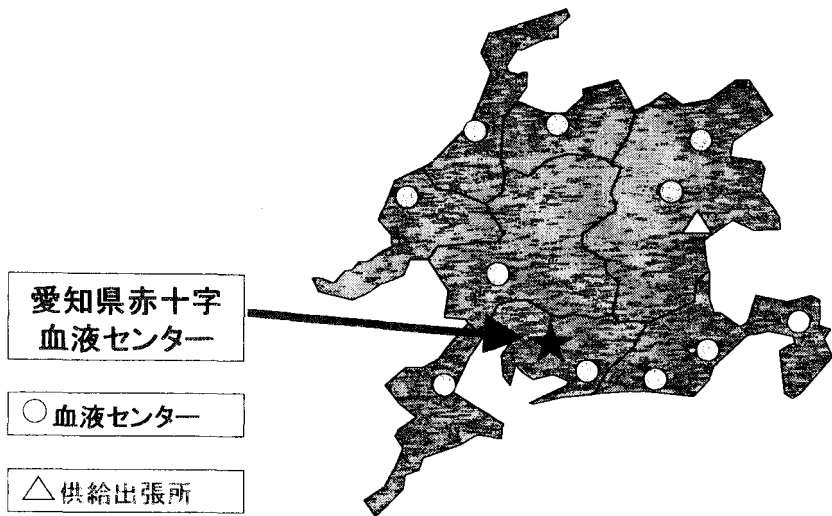


(4) 東京都

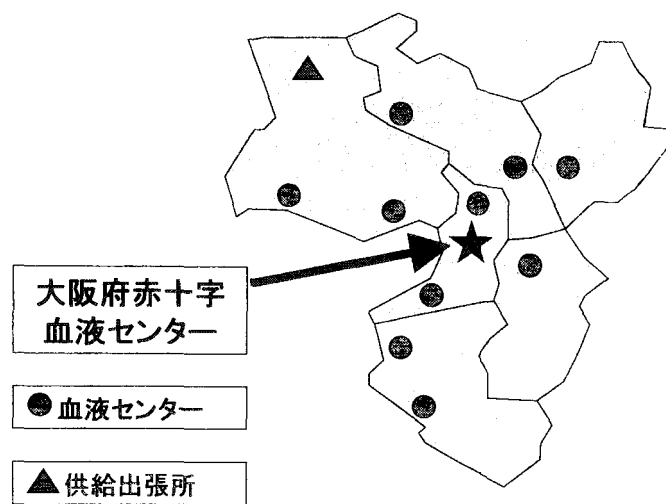
東京都内については、東京都赤十字血液センターから財団法人献血供給事業団へ供給を委託



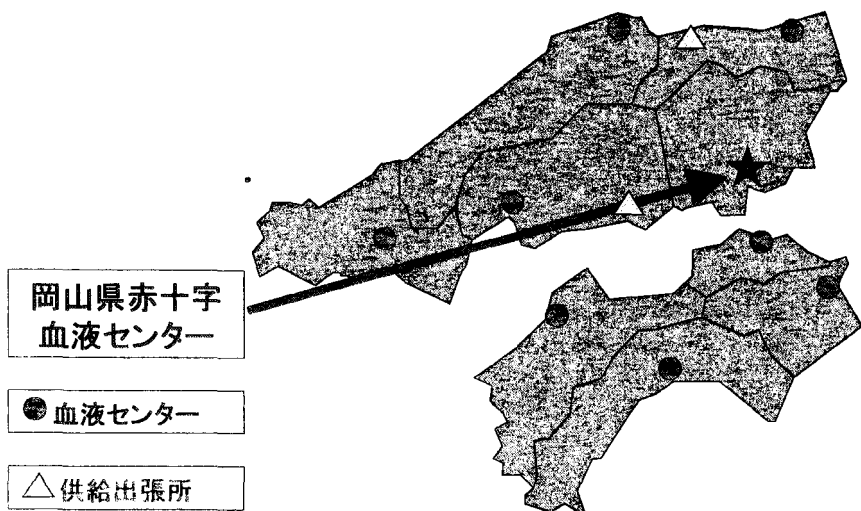
(5) 愛知ブロック



(6) 大阪ブロック



(7) 岡山ブロック



(8) 福岡ブロック

